

## 第1回 男鹿市総合教育会議

日 時：平成 27 年 4 月 20 日（月）  
午前 11 時 00 分～  
場 所：男鹿市役所 市庁舎 3 階  
第 1 会議室

### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 市長あいさつ

#### 3. 教育長あいさつ

#### 4. 協議事項

(1) 男鹿市総合教育会議設置要綱（案）について

(2) 教育の振興に関する施策の大綱（案）について

#### 5. 報告事項

(1) コミュニティ・スクール事業について

#### 6. その他

#### 7. 閉 会

## 第1回男鹿市総合教育会議議事録

- 1 日時 平成27年4月20日(月) 10:54～12:01
- 2 場所 男鹿市役所3階第一会議室
- 3 出席者 男鹿市長 渡部幸男  
男鹿市教育委員会 教育長 鈴木雅彦  
委員 目黒恵子  
委員 角崎紘二  
委員 清水富喜子  
委員 山本貴紀

### 4 内容

#### ●事務局

ただ今から第1回男鹿市総合教育会議を開催いたします。  
初めに、渡部市長よりあいさつをお願いいたします。

#### ●市長

おはようございます。今日のご多用のところ第1回男鹿市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

新教育委員会制度のポイントは、市長が主宰し、男鹿市総合教育会議を開くこと、教育行政の責任の所在を明らかにすること、そして、今日皆さんにご協議いただく男鹿市の教育大綱を策定するということでもあります。

男鹿市は教育を大変大きなテーマとしております。是非この新しい制度のもと、男鹿市の教育が、より輝きが増しますよう皆さんと一緒に頑張ってまいりますので、ご協力をお願いいたします。今日はありがとうございます。

#### ●事務局

続きまして、鈴木教育長よりあいさつをお願いいたします。

#### ●教育長

おはようございます。

法改正により、この4月1日から、新教育委員会制度がスタートいたしました。県内で経過措置をとることなく新教育長という体制の下でスタートした自治体は、本市と美郷町の2つであります。先週、16日と17日に、「東北都市教育長協議会」の定期総会が山形市で開催されましたが、東北6県76の市において、この4月1日に新教育長が就任した市は、男鹿市を含め5つの市でありました。

新教育委員会制度の施行に合わせ、総合教育会議の設置と教育の振興に関する施策の大綱の策定が義務づけられましたことから、各市の教育委員会では、このことについての関心が高く、当日の協議題の一つとして情報交換が行われました。事前に12の市から、総合教育会議の設置と大綱の策定状況について報告がありましたが、総合教育会議については、年2回程度の開催を予定している市が多く、ほとんどは5月以降の開催を予定しているとのことでした。

また、大綱については、教育委員会が策定した「教育振興基本計画」の一部をもって代える、あるいは市の「総合計画」をベースとして、この後策定していくといった市が多く、「未定」や「今後、協議していく」といった市もいくつかございました。

本市では、市長の教育に関する熱意のもとに、本日、第1回総合教育会議を開催することとなりました。市長とは、これまでも様々な形で協議等を行ってきておりますが、市長と教育委員会が、本市の教育に関する課題やあるべき姿を共有し、教育行政を推進していくことが何よりも大事であると思います。総合教育会議において、教育環境の整備に関することや、教育・学術及び文化の振興のために重点的に講ずべき事項などについて、市長と教育委員会が協議や情報交換を進めることで相互の連携が一層密になり、予算措置も含め、学校教育、社会教育の充実につながるものと捉えております。本日は、どうかよろしく願いいたします。

●事務局

ありがとうございました。それではこの後の進行につきましては、本会議を主宰します市長よりお願いいたします。

●市長

それでは進行を務めさせていただきます。よろしくご協力をお願いいたします。お手元の次第にしたがって進めてまいります。4の協議であります。(1)男鹿市総合教育会議設置要綱(案)について事務局から説明をお願いします。

●事務局

～協議資料(1)説明～

●市長

ただ今の男鹿市総合教育会議設置要綱につきまして、皆様からご意見、ご質問をお伺いいたします。

●角崎委員

設置要綱について異議ありません。

●市長

よろしいでしょうか。設置要綱につきましてはこの案のとおり決定することにいたします。続きまして、(2)の教育の振興に関する施策の大綱(案)について事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

～協議資料(2)説明～

●市長

ただ今、事務局から大綱について説明がありましたが、私から、大綱に込めた思いを話させていただきます。

まず、1の「教育環境の整備」についてであります。現在、子どもたちの学習の後押しをしようということで、秋田予備校による土曜学習教室や光通信を活用した学習教室を開催しております。

また、陸上競技や水泳については、小学生のうちから正しい走り方や泳ぎ方を覚える必要があります。走り方については、横手清陵学院高校の岸部先生においでいただき、5、6年生が、体育の授業や陸上大会で走り方の基本を習っております。これを毎年続けることによって、男鹿市の子どもたちの走り方のフォームは大変きれいだといわれるようになることを目標にしております。

また、水泳については、子どもたちにはどんな型でもいいので50m以上泳げるようになってもらいたい。50m以上泳げるようになれば、あとは練習次第で何kmでも泳げるようになるということで、毎年、専門家から水泳の指導を受けており、昨年よりも今年と、さらに泳力を伸ばすことを目指しております。

それから、一つの目玉として、今、掲げているコミュニティ・スクールについてですが、現在、男鹿南中学校校区をモデル校として進めております。コミュニティ・スクールというのは、学校と保護者だけではなく、地域も一体となって子どもたちを育てるというもので、男鹿市の教育の基本であると思っております。いろいろな意味でコミュニティ・スクールをこれから男鹿市の良い事例の一つにしたいと思っております。

2の「地域間交流の機会充実と国際交流の推進」についてですが、地域間交流につきましては、毎年、愛知県春日井市と男鹿市の小学生が交互に訪問し、ホームステイなどしております。男鹿市の子どもたちは先輩たちも含めて、春日井市のことは知っておりますし、春日井市でも男鹿市のことを知っている人は大変多いということです。春日井市は名古屋市の隣に位置する30万都市であります。男鹿市の良い面も交流を通じて感じているということでもあります。

それから、大学との連携についてですが、男鹿市は国際教養大学、秋田大学、ノースアジア大学、県立大学の4つの大学と連携協定を結んでおります。国際化ということに関して言えば、国際教養大学の学生の皆さんが男鹿市でホームステイされたり、あるいは男鹿市の子どもたちが国際教養大学の学園祭にお邪魔して、外国の方々と交流を行っております。子どもたちには外国の方と会っても物怖じせず相手の目を見て、わからない時に笑ってごまかすのではなく、わかるまで話す姿勢を持ってもらいたいということで、ALTの先生も含め、英語を母国語とする方々と話をする機会を増やしております。

3の「生涯スポーツ活動の推進」についてであります。今、男鹿市ではスポーツ大会やスポーツ合宿の誘致を進めております。誘致して単に大会を開いて欲しいというだけではなく、子どもたちを指導する場や、子どもたちが練習や試合を見学できる機会を増やしてもらうことを必ずお願いしております。子どもたちが生で高いレベルの練習あるいは試合を見るということだけでもスポーツに対する関心が高まってくると思いますし、実際その競技を行っている子どもたちにとっては、間違いなくレベルアップにつながっていくものと思っております。また、1の「教育環境の整備」で子どもたちの水泳ということをお話しましたが、国民皆泳の日という日もあるように、男鹿市も子どもたちが全員泳げるようになれば、市民全員が泳げる日に近づくという思いを込めて水泳教室を続けているということでもあります。

4の「生涯学習の推進」についてですが、命を大切に作る心ということをお話しております。"ワーク・ライフ・バランス"がひとつのキーワードとなります。今、男鹿市だけではなく、

全国どの自治体にとっても大きな問題となっている人口減少問題についての話であります。全国市長会などで、少子化問題について研究あるいは調査をしておりますが、基本的に人口問題というのは、結婚して子どもを産むということが進まなければ解決できません。全国市長会でも子どもたちにワーク・ライフ・バランスを教える必要があるということを強く発信しておりますが、例えば、妊娠、出産する適齢期を、子どもの時から教えることが非常に重要だということが指摘されております。当然そういう教育はなされているものだという認識をみんな持っていたと思いますが、アンケートの結果では、そうでもなかったというのが事実であります。特に女性が高学歴化している中で、働いて、気がつけばそういう年代になっているというのが大変多いということでもあります。ワーク・ライフ・バランスということでは、男性も含めた働き方、時間の使い方、いわゆる妊娠、出産、育児の適齢期を男女ともに早い時期に知らせる教育が大事です。また、命を大切にするというのは、例えば、中学生が赤ちゃんに接する機会を増やして、子育ての楽しさなどを学ぶということが子どもの情操教育にも大変意味があるのではないかと思います。このようなことから、ワーク・ライフ・バランスに力を入れていきたいと思っております。

5の「芸術・文化・伝統の保護・継承」についてであります。男鹿市には国指定の重要文化財などいろいろございます。これを大事にしていくことはもちろんでありますし、地域の祭を継承していくことでは、市で町内会交付金制度を設け、地域の祭を実施した場合、支援するというも行っております。地域とのつながりを大事にするということと併せ、特に、倫理観、家族愛、郷土愛を含めたナマハゲの文化ということを男鹿市の教育のひとつの大きな柱にしていきたいと思っております。単なる観光ではない、ナマハゲ本来の姿というものを子どもが学び続けることが、子どもたちの最終的な郷土愛につながるということでもあります。また、ジオパークをはじめとした、いろいろな市の地質遺産や文化をみんなで共有しあう場をたくさん持つということも、伝統や文化の保護・継承につながるという考えで進めております。

今、こういう思いで大綱を定めたいということの説明いたしました。是非、皆さんから、大綱についてご意見をいただきたいと思っております。

#### ●角崎委員

非常にわかりやすく、市長の思いが入っていると思っております。最初の「教育環境の整備」のところ、コミュニティ・スクールについて触れていますが、コミュニティ・スクールは、保護者や地域の人意見を聴いて、これを学校運営に反映するという事なので、どちらかといえば保護者とか地域に重点を置いたほうがいいのではないかと感じます。文章としては「保護者、地域」が先で、「学校」が後でないかという感じがします。もうひとつは、ここに「教育委員会」を入れ、「保護者、地域、学校、教育委員会」でないかという感じがします。四者一体という言葉聞いたことがあるので、「教育委員会」が入ったほうがいいのではないかなという感じがしました。

#### ●教育長

行政も支援していくという形がシステムとしてはいちばんしっくりくると思っております。ただ、コミュニティ・スクールを推進するうえで、学校が核となって進めていきたいというのが、教

育委員会の考え方になりますので、順番としては「学校」をいちばん最初にもってきたほうが、教育委員会としては非常にありがたいという思いがしております。

●市長

コミュニティ・スクールがお話のひとつのポイントですので、皆さんからこれについてのお考えをお願いいたします。

●目黒委員

コミュニティ・スクールという新しい言葉が入っているわけですが、学校、保護者、地域が一体となっているという、そのまとまりというのは以前から、徐々にできつつあって、それをいかに組織化して、ひとつにまとめていくかということが重要と思います。文章については何も申すことはないのですが、思いとして、学校の中に地域が入っていくのか、学校自体が地域に溶けこんで、積極的に進んでいくのかという、どちらの思いで進めていくのかというのがとても難しいと思います。

●市長

先ほど教育長から「学校が核」という話もありましたが、今のお話についてどうですか。

●教育長

学校を地域、家庭の協力を得て活性化する、地域も学校と一体となって地域活性化に向えるという形で、学校としても必ずしも受け身ではなく、どんどん地域に向って情報を発信したり、子どもたちが地域に出ているいろいろな地域の活動を担っていける人材になることができればという考えです。積極的に学校も情報を発信していくという形で、双方ともにウィンウィンの関係でコミュニティ・スクールを核にして、学校も活性化する、地域も活力がでてくる、というような組織を作って進めていきたいということで、今、男鹿南中学校区をモデル地域として準備を進めているところです。

●清水委員

このコミュニティ・スクールに関して、学校、保護者、地域、この人たちの意思の疎通というのは、例えば定期的に月1回集まるなど、そういうことは検討されているのでしょうか。

●教育長

学校運営協議会という組織が核となりますので、その学校運営協議会をどのような日程で開催するかについて、南中学区のモデル校でいろいろ協議してもらっているところです。

●清水委員

実際運営が始まった後、定期的に会議を行うというようなこと、そういうことまではまだ決まっていないですか。

●教育長

まだそこまでは議論が進んでおりませんが、おそらく学校運営協議会の下部組織として、いろいろな部会が当然作られると思いますが、その部会ごとに定期的に集まって、こういうことをやりましょうというような形になっていくと思います。

●市長

コミュニティ・スクールについては、今、教育長が話された方向で進めてまいりたいと思います。

大綱について何かひとつのテーマを決めて話したいと思いますが、何かありましたらどうぞお願いします。

●角崎委員

1から5までひっくるめて話をしていきますか。

●市長

それでは、1の「教育環境の整備」についてはこれでよろしいでしょうか。

続いて2番の「地域間交流、国際交流」について、ご質問、ご意見をお願いいたします。

●角崎委員

ネイティブイングリッシュに触れる機会の充実に市長の思いが入っているのだろうと思いました。

地域間交流についてですが、児童の豊かな人間性、社会性を育む、ということは十分わかるのですが、これにより、男鹿市という郷土の良さというものを再認識させるという、そういう文章が欲しいと思います。地域間交流をすると、男鹿市を再認識し、良さなどをつかむのではないか、それを活かして将来を担う人材を育てて欲しいという気がしますので、なにか郷土を愛するというような言葉をいれたほうが良いと思いました。

●教育長

郷土愛を育むということは、コミュニティ・スクールの推進とも密接に関係してきますので、角崎委員のご意見のとおり、郷土の良さの再認識という言葉をごどこかに組み込めればと思います。

●市長

2の「地域間交流の機会充実と国際交流の推進」についてはよろしいでしょうか。

それでは3の「生涯スポーツ活動の推進」について、ご意見をいただきたいと思います。

●市長

3の「生涯スポーツ活動の推進」についてはよろしいでしょうか。

よろしければ、4の「生涯学習の推進」についてであります。生涯学習ということで様々な分野が入ります。今回の大綱では特にワーク・ライフ・バランスを重視いたしました。これに限らず、皆さんから生涯学習についてのご意見をお願いいたします。

●角崎委員

ワーク・ライフ・バランスについては、市長の説明を聞いてよくわかりましたし、非常にいい言葉が入ったなと思いました。

私が今いちばん懸念していることは、ゲームやテレビに時間を費やす子どもが多いということで、市長もあいさつで話されることがありますが、読書活動の推進にもう少し力を入れてもらえないかと思えます。「読書活動の充実」という言葉はありますが、その前に読書活動を推進するような言葉、例えば、公立図書館を活用してなど、そういうものを活かして読書させるべきだという気がします。そういうものを考えてもらえないかと思いました。

●市長

学校図書支援員は配置されているのですか。

●教育長

学校図書支援員は、現在は配置されておられません。

●市長

学校図書支援員の配置により、子どもたちの読書への関心が高まり、貸出冊数は以前よりも増えました。教育長から、読書についてお願いします。

●教育長

読書につきましては、学校図書支援員を配置して、図書室の整備も大分進みました。子どもたちの読書への意欲は、図書館の整備に伴い大変高くなりました。今、市長から話がありましたように、貸出冊数は増えてきております。整備が大分進んだということで、学校図書支援員の配置は終わっておりますが、学校ではその後も図書室の整備も行っておりますし、貸出冊数につきましても、特に小学校では増えているような状況であります。この後、子どもだけでなく大人も含めて、例えば市立図書館の活用ですとか、市民全体が読書活動に親しむ機会の充実ということも大変重要になってきていると感じております。

●清水委員

P T Aの全体会になかなか父兄が参加しないという話を聞きます。働いているため、時間休暇をとって、子どもの授業だけを見て帰るといった保護者が多いのだと思いますが、やはり、子どもを育てるうえでは、小学生、中学生の親の資質を高めなければならないのではないかと思います。できれば親を対象とした講演など、親が勉強できるような機会を設けてもらえないかと思います。この「育児体験や結婚、出産、育児などの教育をとoshi、命を大切に育てる心を育みます」にプラスして、小学生、中学生の親に学んでいただく何か機会を設けられないのでしょうか。

●市長

小学生、中学生の保護者でしたら、さきほどお話したコミュニティ・スクールはいい機会になるかもしれません。その中で子どもと一緒に聴く講演、そういう感じになりますか。

●清水委員

講演会もあまり偉い人ではなく、身近な人の話を、是非、大勢の皆さんで聞くという機会を設けていただきたいと思います。

●教育長

P T Aは学校に保護者が大勢いらっしゃる機会となります。例えば、その機会を利用して、教養講座を設けるといって運営している学校もございます。今日傍聴席におられます、男鹿なまはげ分校の茂木校長先生は、非常に保護者に対しても興味をそそるようなお話をいただけますので、先生から保護者を対象とした講話をいただくなど、そういうことは大学との連携も含めて十分可能であります。コミュニティ・スクールでもできますが、できるだけ親も学ぶ機会を多く盛り込めるような形でこの後進めていきたいと思っております。

●市長

4の「生涯学習の推進」についてご意見ほかにありませんか。よろしいでしょうか。

続いて、5の「芸術・文化・伝統の保護・継承」についてであります。ご意見をお願いいたします。

●目黒委員



脇本城跡へ車が登っていくのをよく見かけます。歩いて登る人もおりますが、高い所から見下ろせるような景観の良い場所があると思いますので、休む場所、東屋など、そういうものを少し整備していただければと思いますがいかがでしょうか。

●教育長

10年間の整備計画がありますので、それに沿って進めていく予定です。

●市長

脇本城跡については奈良大学の千田学長が来られて講演された中で、タブレットを活用した案内など、いろいろなアイデアをいただいております。単なる休み場所というのではなく、いかに脇本城跡をみんなに知っていただくかです。最近“城ガール”という、女性で城を歩くことが好きな方もおられるということで、そういう方も男鹿に来ていただく、まず何よりも関心を高めることだと思います。ご存じのとおり脇本城跡の景色は確かに素晴らしいけれども、建造物は何もないので、一般の方にイメージしてもらうことは非常に難しいと思います。

●目黒委員

そのタブレットというのは貸し出しするのですか。

●市長

貸し出しすることになります。

●目黒委員

今現在、登られる方が結構おられます。お年を召した方を見て、大変だなと思うのですが、登った良さを感じないと、口コミにしても、次に伝わっていかないのかなと思います。タブレットにしても、日本中いろいろなところでいろいろなことやっているわけですから、すぐに始めないと、出遅れてしまいます。

●教育長

ビジュアルですぐわかるということが、今いちばん必要になってきますので、予算もからみますが、できるだけ実現する方向で進めてまいります。

●目黒委員

みなさん、インターネットなどで調べていかれると思いますので、資料などももう少し、充実していただければと思います。

●市長

ほかにご意見ありませんでしょうか。

●教育長

伝統文化の継承ということになりますが、先週、山形市でおこなわれました、東北都市教育長協議会の懇親会で、いろいろな市の教育長とお話しました。来年の会場が男鹿市ということもあり、多くの方に話しかけられました。その中で、どこの市も少子化に向って進んでおり、大事なことは学校教育としても地域との関わりをどうつけていくか、文化・歴史も含めて地域との関わりを持たせないとなかなか人口の定着は難しいというようなことを共通してみなさんがお話しされておりました。

岩手県のある市の教育長とのお話では、何年か前に職員で秋田県に視察、研修にいらした

際、いくつかの市を回られたそうですが、いちばん印象に残ったのはナマハゲだったそうです。なまはげ館を見学し、その後で伝承館でナマハゲの問答を見られ、一つひとつやり取りを聞いて、なるほど、秋田県の子どもたちになぜいじめが少ないのか、なぜ学力が高いのかという理由がよくわかったという話をされました。例えば、誰も見ていなくてもナマハゲが見ているので、悪いことをしてはだめだとか、人をいじめてはだめだとか、家に帰ったら宿題、勉強しなければいけないというようなことが小さい時からしっかり伝わっている。それが、郷土愛であるとか、倫理観、家族愛を含めて非常に大きな要因になっているのではないかということでした。学校教育の中でもそういった地域の大事な文化や伝統を守っていくということがかなり大事になってくると思います。

#### ●山本委員

私は先ほど市長がおっしゃっていた少子化の問題、人口減少のことが教育に関しても大事だと思っております。どんなにいいことをやって、人材を輩出したとしても、最終的に帰ってきてもらわなければ、まったく男鹿市のためには残っていかない部分があります。そういう意味では、人口減少を食い止めることを含めて、男鹿になぜ帰ってこなければいけないのかということ、もう少し明確にしたような文章があればいいのではないかと思います。これだけの芸術・文化があり、生涯学習の中でいろいろな取り組みがありながら、連動はしているけれども、最終的にここにとどまる理由というものが明確に示されていないわけです。利便性だけを求めて都会へ行かれますのが、男鹿というのはこれだけいいところなのだというアピールが少し足りないような感じがします。

ナマハゲ文化というのはもちろんいいことだと思いますが、これだけ子どもたちが減り、教室も空く中で、いろいろな問題を抱えた子どもたちを施設も含めて、男鹿の大自然、環境で受け入れるといったようなものを入れていただければ、他の地域と全く違うことをやるという部分では、またひとつ男鹿としてのアピールというのが違うのかなと思います。

#### ●市長

山本委員のお話はもっともな話で、よく子どもたちが男鹿に帰ってきたくても働く場がないのでと簡単に言ってしまうのですが、私が今、いろいろな場で申し上げているのは、子どもたちには求められる人材になってもらいたいということです。例えば、先ほどの1の「教育環境の整備」ということで、子どもたちの学力の後押しをするという話の中で、私は秘かに“秋田大学医学部プロジェクト”と名付けておりますが、医師になれるような学力を身につけさせたいと思っております。また、医師でなくても、いろいろな資格、国家資格を取ることができれば、男鹿市に帰ってきたいと思えば、いったん男鹿を出たとしても、経験や資格を持って帰れば、大変重要な人材として迎えることができます。こういった資格がなければ仕事ができないという会社もあるわけですから、そういう人になってもらいたいと思います。決して勉強だけというつもりはありませんが、学力も大変大事ということで、各学校に光通信を整備し、学ぶ気になればいくらでも学べる環境を作っておくことをしております。単純に学校を卒業しましたというだけではなかなか働く場はないと思いますので、山本委員が言われたいづれ帰ってくる、あるいは最初からでもいいですが、そういう意識をもった子どもたちになってもらいたいと思います。

●山本委員

秋田へはまだ少ないですが、これからインバウンドで外国のお客さんがどんどん増えてくるはずですが、2でもグローバル社会を見据えた人材の育成とありますが、私は観光に携わっておりますので、外国のお客さんの対応を含め、語学ができる人材がいれば、仕事もすごくやりやすいですし、勉強になっていきます。できればそういうものも含めて男鹿に残る、帰ってくる人材を育てて欲しいと思います。

●教育長

教育委員会としては、やはり学力の向上が最重点課題となります。学力がつくことで将来的に子どもの職業選択の幅も広がりますので、市長が考える以上に教育委員会は学力を向上させたいということでもありますので、この後もいろいろな方策を続けていきたいと思っています。

●目黒委員

光通信を活用した教育については、基本的な学力がないとついていけないのではないかと思います。やはり学校で細かく点検しながら基礎学力をつけていかないといけないので、これは大変難しいのではないかと思います。

●教育長

光通信の活用は、大変画期的な取り組みですが、各中学校から意見を伺ったところでは、使い勝手がよい場面もありますし、もう少し工夫すれば参加する生徒も増えるというようなご意見もありました。各学校への細かい聞き取りとともに、秋田予備校と協議しながら、多くの生徒が参加しやすい環境を作っていきたいと思っています。

●市長

ほかにありませんか。それでは大綱については、皆様からご意見をいただいたことを含めて、必要なところは手直しするというのでまとめたいと思います。その内容につきましては私にご一任いただくということでよろしいでしょうか。

●全員

異議なし

●市長

そのようにいたします。

続きまして、次第の5. 報告事項であります。コミュニティ・スクール事業について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

コミュニティ・スクール事業について説明させていただきます。

本市は、平成28年4月1日に全部の小中学校をコミュニティ・スクールに指定するというで動いております。この中で男鹿南中学校区は、昨年度から文部科学省のコミュニティ・スクール導入促進事業を活用した取り組みを行っており、先ほど市長からも説明がありましたように、モデル事業の3校の取り組みを参考にして、ほかの小学校、中学校も取り組みを進めてまいります。

この会議でも、委員から、地域のまとまりは以前からあったのではないかというお話がありましたが、様々な形での学校と地域との連携の土台がございます。また、学校におきまし

ては、例えば〇〇小学校の教育を考える会とか、学校評価委員会というものがございまして、今ある枠組みを活用し、それに地域の方々が参画するといったようなコミュニティ・スクールの機能を取り入れた新しい枠組みで、地域と学校の活性化を図っていききたいというのが教育委員会の考えであります。

先ほど、コミュニティ・スクール内の意思の疎通、共有の場というお話がありましたが、男鹿市の目指すコミュニティ・スクール像としましては、この後、各小中学校に概ね6～8人からなる学校運営協議会を作り、学校支援や地域支援について共有していくわけですが、少し時間が経った段階でブロック・コミュニティという考えに立ち、同じ中学校区の小中学校が連携し、それぞれの学校に加えて、中学校区として、地域の活性化にも働きかけていくことを考えております。また、将来的にはそういった4つの中学校区の代表に集まっていたら、情報交換を行っていくという年次計画なども考えております。

教育委員会では、今年7月の教育講演会で、CSマイスター、いわゆるコミュニティ・スクールの専門家に来ていただいて、教職員がコミュニティ・スクールについて研修する場を設ける計画を持っておりますし、年度末にはリーフレットを作成して、全戸に配布し、地域の方々にもこの取り組みを周知していきたくと考えております。

この後、若干時間をお借りいたしまして、先行モデル事業の南中学区の取り組みを資料に沿って説明させていただきます。

以下、資料説明

#### ●市長

ただいまのコミュニティ・スクール事業につきまして委員の皆さんから質問ございますか。教育長、なにか補足ありますか。

#### ●教育長

コミュニティ・スクールの核になります、学校運営協議会につきましては今年度中に全て整え、来年度の4月1日からすぐ取り組みを始められるよう、準備を進めております。

既にコミュニティ・スクールに取り組んでいる市の教育長からは、コミュニティ・スクールの導入してから、いじめや保護者の理不尽なクレームの件数が減ったということをお聞きしました。コミュニティ・スクールの導入するまでは、学校が大変難儀されたということでしたが、導入してからは、地域の方々の学校に対する理解や、地域と一緒に子どもを育てることが共通理解され、地域の目が地域の子どもの向き、保護者も含めて子どもに対する教育の見方が高くなったということ、いじめや、理不尽なクレームというものがほとんどなくなったということが導入した大きな成果のひとつであるということでした。

男鹿市にとって、地域と学校を強力で結びつけながら学校の活性化、地域の活力の維持を図るということにおいてはコミュニティ・スクールが今考えられる方策では一番ではないかと思っております。平成28年4月の導入に向けて、この後も一つ一つ進めてまいりますのでよろしく願いいたします。

#### ●清水委員

質問ですが、コミュニティ・スクールで大事なのはコーディネーターの存在だと思いますが、そのコーディネーターを、現段階から、講習会などを開きながら育成していくような形はとっておりますか。

●教育長

コーディネーターの資質によってコミュニティ・スクールも大分違ってきますので、地域に人材がいれば一番いいわけです。学区ごとに、どういう方をコーディネーターにして進めていくかについて、学校と連携を取りながらしっかり進めてまいりたいと思います。

●山本委員

いずれにしてもコミュニティ・スクールの核となるのは保護者だと思います。働いている中で、時間の制約があり、PTAにも参加できないという方もいらっしゃいます。いろいろ地域でやられている方々は、今までも学校の活動には参加されており、それをもう少し大きくやるというイメージだと思いますが、学校と地域の間に入る保護者の立ち位置が非常に難しいと思います。無理に進めても成果は出ないような気がします。やはり地域の連携というのは、ハードルを下げて、少しずつ始めていくというように、保護者をうまく結びつけるためのコーディネーターがやはり一番大事だと思います。あまり物事を先走ってやりすぎるとハレーションがおきますので、そのあたりのジャッジをうまくしながら進めてもらいたいと思います。老人クラブ、見守り隊の方々を含めて地域の方たちは、これまでも運動会など、学校と様々な活動をされておりますので、その部分はあまり問題ないと思っています。

教育委員会がはまり過ぎても、いい結果はでないと思いますので、そのへんのジャッジができるコーディネーターが必要になってくると思います。

●教育長

コミュニティ・スクールを推進している地域でも、保護者の負担感という話はございました。今のお話のようにあまり負担を感じないように、まずその方々の都合によっていろいろ参加していただけるという流れが良いと思います。高齢者でも、元気な方がたくさんいらっしゃいますので、町内会長さんも含めて、学校の活力の維持に貢献していただけるコーディネーターを考えていきたいと思います。

●市長

コミュニティ・スクールについてはよろしいでしょうか。

6のその他ですが、事務局からその他ありますか。委員の皆さんからその他何かありますか。よろしいでしょうか。

それではこれを持ちまして第1回の男鹿市総合教育会議を閉じさせていただきます。引き続き皆様からいろいろなご意見をいただきながら、いい方向に進めてまいりたいと思っております。今日はありがとうございました。